

ワンダー民話館

水谷章三 ● 文 長浜宏 ● 絵

おやゆびたろう



ワンダー民話館 おやゆびたろう

二〇〇五年十一月二十日 初版第一刷発行

水谷章三 絵 長浜 宏

行人 小林公成

行 株式会社世界文化社

東京都千代田区九段北四二二二九

〒一〇二一八一八七

電話〇三(三二六二)五一二五(販売本部)

〇三(三二六二)五一二一(編集部)

刷 共同印刷株式会社

本 株式会社大観社

無断転載・複写

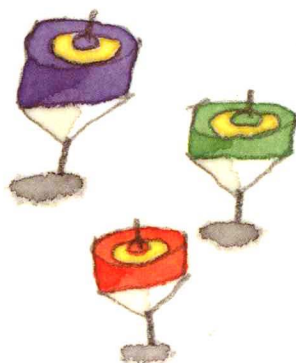
©Shozo Mizutani, Hiroshi Nagahama

2005 Printed in Japan

ISBN4-418-05844-3

紙で手を切ることがあります。

絵本の扱いには十分ご注意ください。



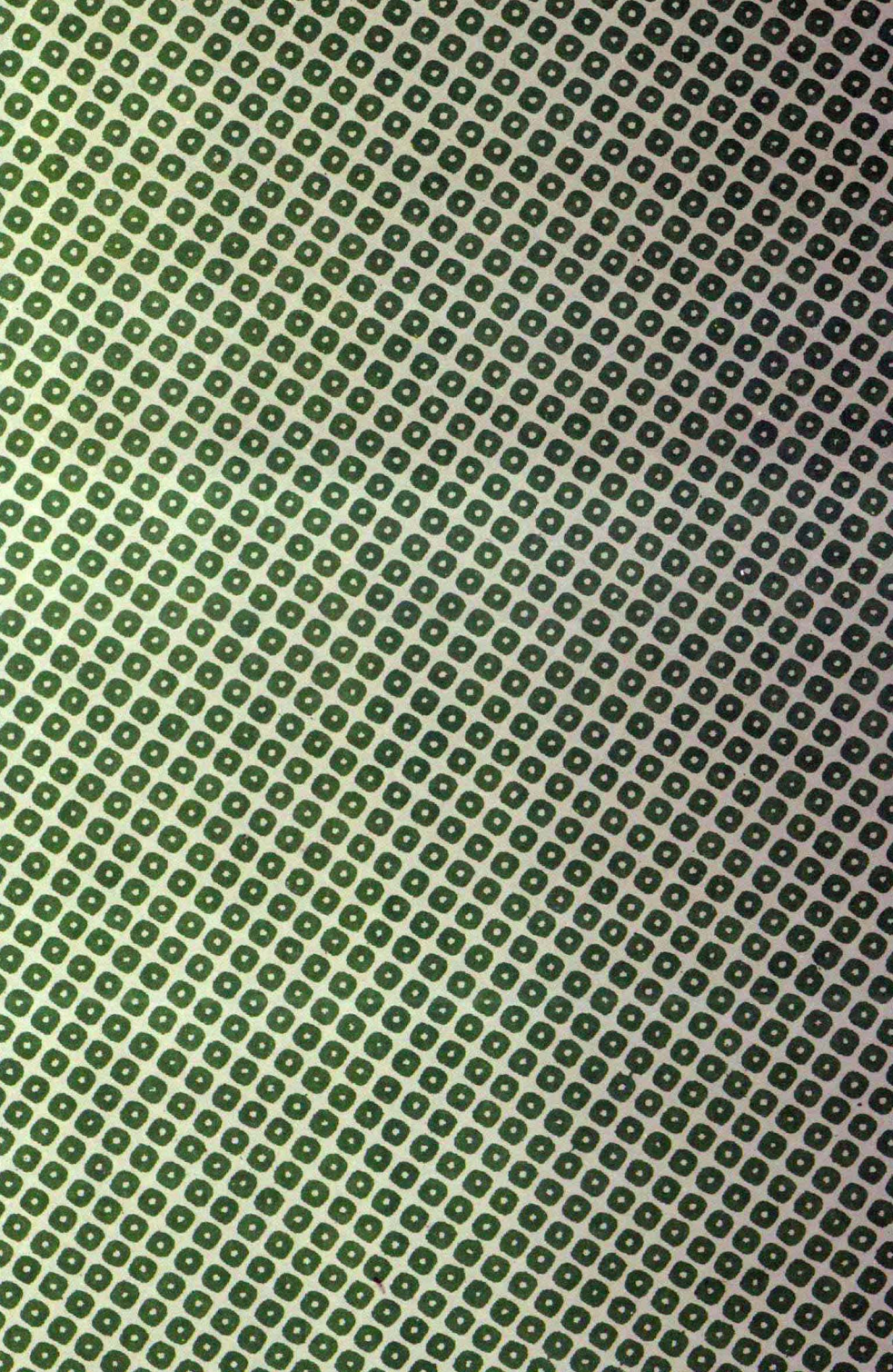


おやゆびたろう

水谷章三 ● 文 長浜宏 ● 絵

江苏工业学院图书馆
藏书章

ワンダー民話館



おやゆび たろう



文 ● 水谷章三
絵 ● 長浜

むかし

あるところに、

びんぼうだけど

とつても なかの いい じいさまと

ばあさまが すんで いました。

ふたりには、こどもが ありませんでした。

それが さびしくてね。

「どうか かみさま、まめつぶみたいに

ちいさくても いいから、こどもを

ひとり おさずけ くだされ」

まいにち まいにち、かみさまに

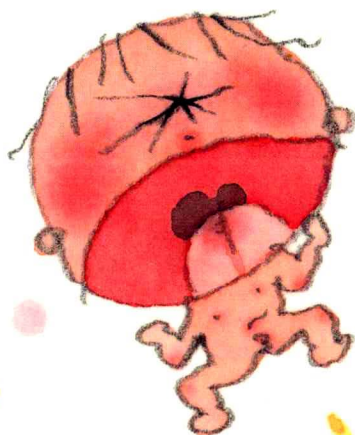
おねがいして いました。







うしたら、あるとき、ばあさまの
おやゆびが　ぷくつと　ふくらんでね。
なんと、そこから、ちいさな　ちいさな
おとこのこが　うまれて　きました。



お、お、かわいい こじや」
じいさまと ばあさまは

おおよろこび。

おやゆびたろうと なまえを つけて、
だいじに そだてました。

ところが、いちねん たつても、

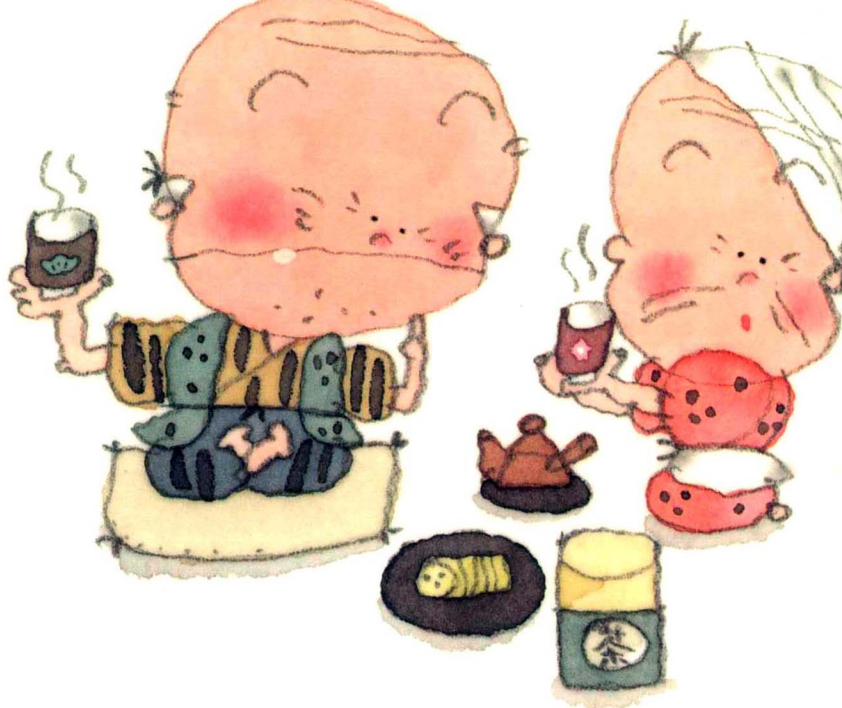
にねん たつても、おやゆびたろうは、

おおきく なりません。

くちも ききません。

「こりやあ まあ、どう なる ことやら」







ねん たった ある ひの
ことです。いきなり、

おやゆびたろうが くちを
きいたのです。

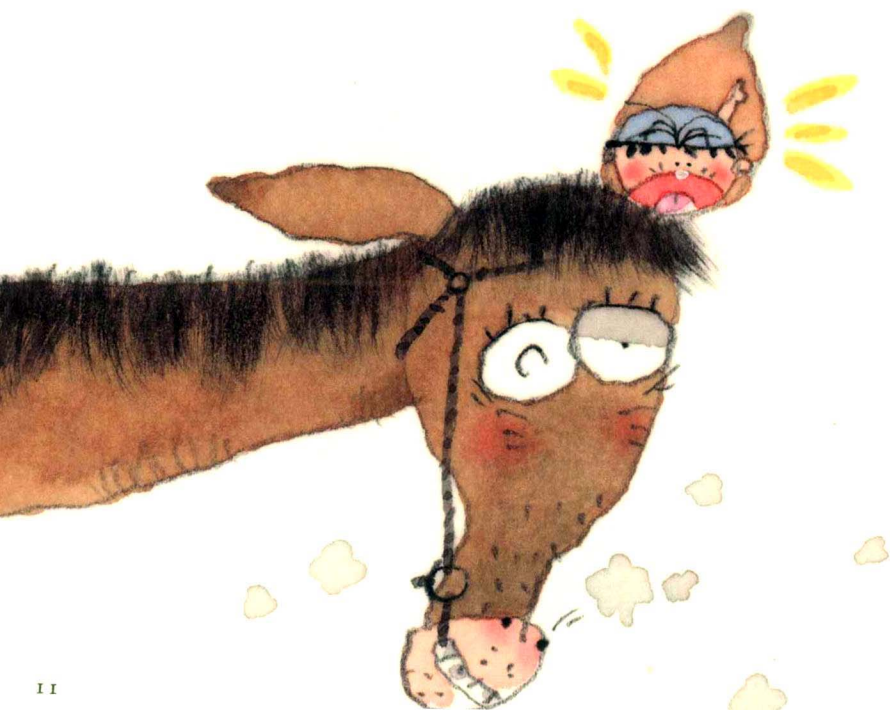
「おら、じいさまの てつだいする。

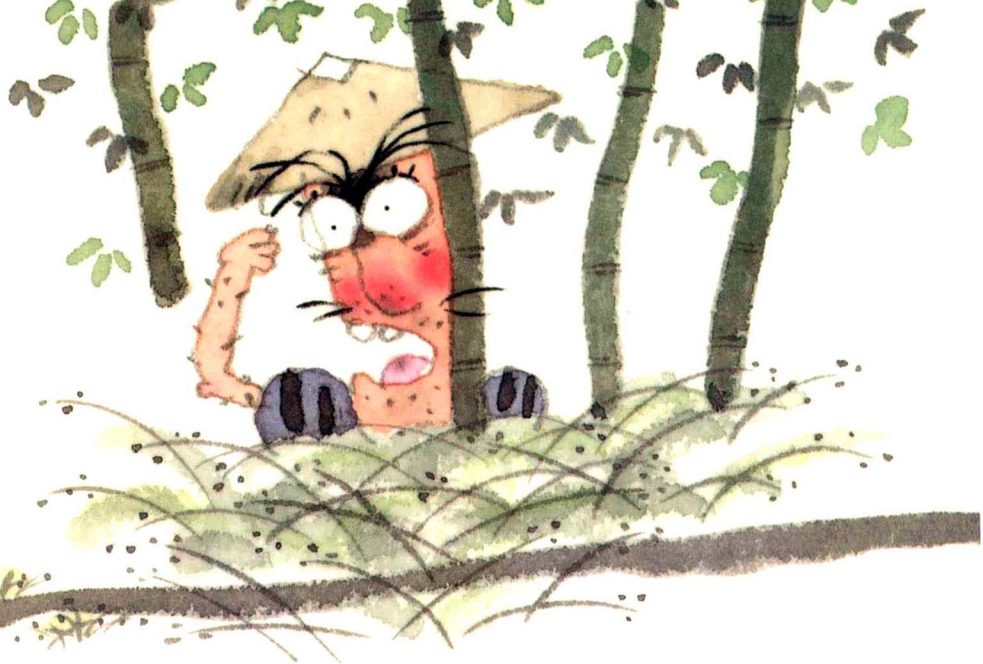
おらを うまの みみに いれて くれ」

じいさまは、たまげて めを しろくろ。

おやゆびたろうは、うまの みみの なかで、
めいれいします。

「はい、どう どう どう。みぎ。ひだり」





う

まは、おやゆびたろうに いわれる
とおり、とことこ とことこ。

じいさまは、うまから はなれて、
うしろから ぶらぶら ぶらぶら。

こんな らくな ことは ありません。

その ようすを、やぶの かげから
のぞいて いる おとこが いました。

「めずらしい ちびっこだ。あれを
みせものに すれば、うんと かねもうけが
できるに ちがいない」





「おい、じいさん。そのちびっこを
おゆずってくれや。ひゃくりよう
ですよ」

「なんちゅうこと　いうか。」

「とんでもない」

「じいさまは、あわてて

「おやゆびたろうを

ふところに　いれました。」

すると、おやゆびたろうが、

「ちいさな　こえで　いいました。」

「じいさま、ひゃくりようで、

「おらを　うれ。いい　かんがえが

あるから、だいじょうぶだ」

